

解翁

過古種

夏

中村俊定文庫

文庫 18

520

2



雙詠





一、おのれをいふに 衣更

後、のりぬきていふに

おの

おのれをいふに、御山、江、
御山、二、荒、山、と、いふ、
大、師、用、是、の、時、日、光、と、いふ、
午、日、も、未、日、と、いふ、
光、一、天、と、いふ、
おのれをいふに、御山、江、
御山、二、荒、山、と、いふ、
大、師、用、是、の、時、日、光、と、いふ、
午、日、も、未、日、と、いふ、
光、一、天、と、いふ、

おのれをいふに、御山、江、

おの

おのれをいふに、御山、江、
御山、二、荒、山、と、いふ、
大、師、用、是、の、時、日、光、と、いふ、
午、日、も、未、日、と、いふ、
光、一、天、と、いふ、

おのれをいふに、御山、江、

おのれをいふに、御山、江、

おの

夏より秋にかけて
或は此中より
藤名石草
草中
うま
舟
の世
の世
の世

夏より秋にかけて
藤名石草
草中
うま
舟
の世
の世
の世

舟
の世
の世
の世

舟
の世
の世
の世

舟
の世
の世
の世

舟
の世
の世
の世

舟
の世
の世
の世

舟
の世
の世
の世

舟
の世
の世
の世

程より
多作 尾命ヤ
程より 乃のちありて
園より 大鯉初春は花
翁 亦く かくし
之乎 乃のちありて
やとゆひ 乃のちありて

程より 乃のちありて 拜心 同下

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて
乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

具角母 乙七 (信) 善

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて
乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

程より

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて
乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

知足より 在るなり

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて
乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて
乃のちありて 乃のちありて 乃のちありて

宝殿のつらとてはかみついでい ときりし家世に 見えたり
夏は水 といふはしり 難き ありき 多し ありき ありき ありき
宗室の 治世と 治世と 治世と 治世と 治世と 治世と 治世と
つらとてはかみついでい ときりし家世に 見えたり
牡丹をよめ 水原 治世と 治世と 治世と 治世と 治世と 治世と

牡丹をよめ 水原 治世と 治世と 治世と 治世と 治世と 治世と

のりし家世に 見えたり

牡丹をよめ 水原 治世と 治世と 治世と 治世と 治世と 治世と

のりし家世に 見えたり

牡丹をよめ 水原 治世と 治世と 治世と 治世と 治世と 治世と

のりし家世に 見えたり

牡丹をよめ 水原 治世と 治世と 治世と 治世と 治世と 治世と

のりし家世に 見えたり

牡丹をよめ 水原 治世と 治世と 治世と 治世と 治世と 治世と
直ぐの 受蓮院
李唐自 世八
受蓮院 牡丹名を
言貴者也
只るを ときりし家世に
治世の 奥は 秘
そりし 治世と 治世と
つらとてはかみついでい ときりし家世に 見えたり

のりし家世に 見えたり

権はのりし家世に 見えたり

のりし家世に 見えたり

権はのりし家世に 見えたり

のりし家世に 見えたり

権はのりし家世に 見えたり

のりし家世に 見えたり

権はのりし家世に 見えたり

のりし家世に 見えたり

権はのりし家世に 見えたり

権はのりし家世に 見えたり

のりし家世に 見えたり

権はのりし家世に 見えたり

のりし家世に 見えたり

多々也
前書

四月 洛山し 洛川の
多々也
西 彰力と云

多々也
見新竹兄
具 彬名句
曾同春に句添定前
一月 洛川因一不
と云く云くて因
多々の兄と云の世
之知一云と云の
の月 抱しと云

多々也 萩川、
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云

多々也
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云
多々の多々の厚氏と云

多々の多々の厚氏と云

多々の多々の厚氏と云

多々の多々の厚氏と云

多々の多々の厚氏と云

多々の多々の厚氏と云

多々の多々の厚氏と云

多々の多々の厚氏と云

多々の多々の厚氏と云

多々の多々の厚氏と云

多々の多々の厚氏と云

多々の多々の厚氏と云

多々の多々の厚氏と云

田一様
 多作下町四丁目
 ありのれ所
 せふれと
 情に横字交態心
 知事ハ之をかし
 奥の頭望川流
 水州若洲川
 あり

大垣城主日支御代奉書御下
 所より尾從守田の御下
 為しの為り後々御 茂ル
 送り信之條 月のお始
 雨と根守士の杉形の花
 葉様 見の葉
 清水馬の帯若の蓮
 甲の町おひきの郡
 戸田河東の折にせり
 形 申しすはぬ
 赤の御下
 田一様 清水の舟
 秋 清水の舟

左金津根さくさく
 洞島さくさく
 地とさくさく
 舞のさくさく
 白のさくさく
 やい同 舞のさくさく
 舞と舞のさくさく
 風流の略や
 辛乳 舞のさくさく
 舞のさくさく
 早所 舞のさくさく
 舞のさくさく

世と縁 直月
自他 際め切し
上土の句味 早苗
世縁の感
尾代又縁
雨所
正凡の中
可身

雨く〜と尾と並〜早苗
吹ゆ〜月 涼 健
早

世と縁 雨〜雨の往戻
初由定〜雨の早
早

雨所〜雨の早
津鼓〜雨の早
早

早苗〜雨の早
雨〜雨の早
早

西〜東〜早苗も凡の早
信所〜早苗も凡の早
早

信又あり所と〜信又
里〜雨の早
石半 埋れ〜雨の早
早苗〜雨の早
雨〜雨の早
雨〜雨の早
雨〜雨の早

早苗〜雨の早
早

祥〜雨の早
早

雨所〜雨の早
月を明〜雨の早
早

早苗〜雨の早
早

早苗〜雨の早
早

みねのし
あやのり 佐々木
あやのり 佐々木の
あやのり 佐々木の
あやのり 佐々木の
あやのり 佐々木の
あやのり 佐々木の
あやのり 佐々木の
あやのり 佐々木の
あやのり 佐々木の
あやのり 佐々木の

能く
師
寧ろ
不可
入
一

あやのり
あやのり
あやのり
あやのり
あやのり
あやのり
あやのり
あやのり
あやのり
あやのり

尾の
送る

川
後

想
寝

寝
寝

寝
寝

寝
寝

寝
寝

寝
寝

寝
寝

伊豆
我
来

一
使

使
使

使
使

甲
甲

甲
甲

甲

甲
甲
甲
甲
甲
甲
甲
甲
甲
甲

ふりかへり
ふりかへり
ふりかへり
ふりかへり
ふりかへり

作
作
作
作
作

作
作
作
作
作

ふりかへり
ふりかへり
ふりかへり
ふりかへり
ふりかへり

作
作
作
作
作

作
作
作
作
作

作
作
作
作
作

作
作
作
作
作

作
作
作
作
作

名五門と御... 仙居入草屋
高日し勝名と物... 西より直る
爰に画工をたのむ... けふも
しるべきや... 考ふに
しりまのり... 杖を
杖を... 玉田
同... 御
作... 御
作... 御
作... 御
作... 御

作
作
作
作
作

葛原まゝ

葛原まゝの吾妻のり
の内、十支のきり

法作し、紙作、入、又

五道少佐と、か何書き、うらみの

昔年、車力、そと、續多
こゝ、ま、す、か、下、畧、所、と、う、く

か、か、し、り、り、居、ま、い、り、り

汗、し、も、も、か、裁、の、目、い、き、し

一、灰、々、々、の、竹、は、孤、寡、な、は、少

裁、竹、無、竹、雨、退、而、便、
後、須、雷、宿、士、記、東、南、
杖、上、是、か、訣、也、又、俗、説、五、月、十、日、ホ、醉、日、ト、テ、排、初、ハ、塔、院、ト、モ、不、捨、又、
居、多、御、村、カ、リ、ト、テ、竹、竹、及、十、三、日、本、御、外、云、裁、竹、百、竹、二、死、初、云、有、宝、初、
り、り、何、々、一、善、心、と、用、い、り、也、凡、本、心、足、運、苗、を、伴、

運、命、と、ま、り、く、り、り、經

種、お、を、な、り、代、の、お、記、は、少

杉、魚、賣、い、ろ、ろ、人、と、研、り、ん

麻、代、と、ま、れ、ん、お、く、ら、は、少

露、は、る、り、り、

ゆ、い、れ、れ、け、の、ほ、ろ、と、え、ん

心、と、後、い、ろ、ろ、空、風、は、少

ゆ、い、れ、れ、あ、ゆ、を、や、月、の、心

鼻、の、因、と、あ、い、り、り、噴、は、少

病、甲、眉、詠

あ、も、ろ、ろ、容、顔、看、割、り、如

あ、い、ろ、ろ、移、因、の、心、は、少

歌、田、井、り

早、れ、れ、足、り、な、か、や、ま、の

そ、の、代、と、あ、の、開、く、く、お、初、は、少

早、れ、れ、
あ、い、ろ、ろ、の、橋、は、夏、に
あ、い、ろ、ろ、の、大、知、因、を、さ、す
と、い、ろ、ろ、の、心、は
石、上、や、ろ、ろ、の、橋、は、夏、に
あ、い、ろ、ろ、の、心、は
あ、い、ろ、ろ、の、早、れ、れ、を、さ、す
あ、い、ろ、ろ、の、心、は
あ、い、ろ、ろ、の、橋、は、夏、に

空もやむらぬ
雲もよめぬ
向あり能くぬえ
向あり

地をくし移りて
杖者
杖
杖

空もやむらぬ
雲もよめぬ
向あり能くぬえ
向あり

空もやむらぬ
雲もよめぬ
向あり能くぬえ
向あり

空もやむらぬ
雲もよめぬ
向あり能くぬえ
向あり

空もやむらぬ
雲もよめぬ
向あり能くぬえ
向あり

空もやむらぬ
雲もよめぬ
向あり能くぬえ
向あり

空もやむらぬ
雲もよめぬ
向あり能くぬえ
向あり

空もやむらぬ
雲もよめぬ
向あり能くぬえ
向あり

空もやむらぬ
雲もよめぬ
向あり能くぬえ
向あり

空もやむらぬ
雲もよめぬ
向あり能くぬえ
向あり

空もやむらぬ
雲もよめぬ
向あり能くぬえ
向あり

又西の
朽とわなと名計と
枯の
又西の
朽とわなと名計と
枯の

又西の
朽とわなと名計と
枯の
又西の
朽とわなと名計と
枯の

又西の
朽とわなと名計と
枯の
又西の
朽とわなと名計と
枯の

又西の
朽とわなと名計と
枯の
又西の
朽とわなと名計と
枯の

粟山... 行基
舟の一事と... 杉... 木

世の人れえつる毎々朝の粟

入秋家... 迄迄... 好

新... 之... 月... 夏... 後...
新... 之... 月... 夏... 後...
新... 之... 月... 夏... 後...

好... 世... 入... 粟... 行... 杉... 木...
好... 世... 入... 粟... 行... 杉... 木...

新... 山... 長... 尺...
新... 山... 長... 尺...

好... 山... 尺... 好...
好... 山... 尺... 好...

南... 山... 尺...
南... 山... 尺...
南... 山... 尺...

好... 尺... 好...
好... 尺... 好...

言わし
あか
ひしし
ふり
きく
さ
あ
ま
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

言わし 何れかの 暮るき

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

夏又成と

許六幸位に作る

雅のわかれ

あやの 樹人の心も
あやの 雅の心も
あやの 万に万に

あやの 万に万に
あやの 万に万に
あやの 万に万に
あやの 万に万に

山ありては又雅と評し
長角日よ日客す角と
幸さ幸さすこと久し
幸さ幸さすこと久し

夏又成と評し

あやの 雅の心も

あやの 雅の心も

あやの 雅の心も

あやの 雅の心も

あやの 雅の心も

あやの 雅の心も

あやの 雅の心も

あやの 雅の心も

あやの 雅の心も
あやの 雅の心も
あやの 雅の心も
あやの 雅の心も

あやの 雅の心も
あやの 雅の心も
あやの 雅の心も
あやの 雅の心も
あやの 雅の心も
あやの 雅の心も
あやの 雅の心も
あやの 雅の心も

團らん〜
舟行 貫々美し
仰者念、高のつま
磨ききこふゆいし

船南縁

四甲と舟中をいし山甲に
やうきとさしき舟のゆ

團らん〜
舟行 貫々美し
仰者念、高のつま
磨ききこふゆいし

團らん〜あつらん人の舟ね

團らん〜
舟行 貫々美し
仰者念、高のつま
磨ききこふゆいし

け〜唐々いし山江の交 子少

團らん〜
舟行 貫々美し
仰者念、高のつま
磨ききこふゆいし

氏ハのあし 夢所産の
まぬり人し貞徳のあつらん人し

團らん〜
舟行 貫々美し
仰者念、高のつま
磨ききこふゆいし

源〜舟中をいし山江の交 子少

團らん〜
舟行 貫々美し
仰者念、高のつま
磨ききこふゆいし

推又のる〜舟中 子少

團らん〜
舟行 貫々美し
仰者念、高のつま
磨ききこふゆいし

あつらん人の舟ね

團らん〜
舟行 貫々美し
仰者念、高のつま
磨ききこふゆいし

舟中をいし山江の交 子少

團らん〜
舟行 貫々美し
仰者念、高のつま
磨ききこふゆいし

舟中をいし山江の交 子少

團らん〜
舟行 貫々美し
仰者念、高のつま
磨ききこふゆいし

舟中をいし山江の交 子少

團らん〜
舟行 貫々美し
仰者念、高のつま
磨ききこふゆいし

舟中をいし山江の交 子少

舟のまこと
舟行 貫々美し
仰者念、高のつま
磨ききこふゆいし

暑〜〜〜 荆と煙い量上

細い煙〜舟中の音 子少

舟中の音〜舟中の音

舟〜田舎れ月〜寝ん

舟〜田舎れ月〜寝ん 子少

舟〜田舎れ月〜寝ん

舟〜田舎れ月〜寝ん 子少

舟〜田舎れ月〜寝ん

舟〜田舎れ月〜寝ん 子少

舟〜田舎れ月〜寝ん

舟〜田舎れ月〜寝ん 子少

神のしり
又の切はむり
に子貧富、二用
世の貧、淫と
ごのしり、マと
又のしり、神のし
名、心、の、さ、り、の、し

又類 七、八、九、の、船、船
船、船、と、来、り、し、り、
又類 七、八、九、の、船、船
船、船、と、来、り、し、り、

如 舟、舟、と、来、り、し、り、
舟、舟、と、来、り、し、り、

十八、九、の、船、船
舟、舟、と、来、り、し、り、
舟、舟、と、来、り、し、り、

いづれ目と心の中
あるのは是れ
入るは心の中
百重も。
都て心の中
そよよと
唯
心の中
心の中

陰火の勢も情も
目覚めぬ心の中
蒲洞の心の
心の中
心の中
心の中
心の中
心の中
心の中
心の中
心の中

忘れども
前を去る
前を去る

忘れども
心の中

忘れども
心の中

忘れども
心の中

忘れども
心の中

忘れども
心の中

忘れども
心の中

忘れども
心の中

忘れども
心の中

忘れども
心の中

凡作

幽冥祿 揮鐘植瓜

有客設瓜 客謂鐘

曰蒙君之厚惠

凡のつもの

凡はこれ君ありを

酒の味はのさるるを

凡のつもの

尾のつもの

凡のつもの

涼のつもの

凡のつもの

六月のつもの

凡のつもの

凡のつもの

五日確現... 凡のつもの

今しやしやのちの身は万葉の
与りおのれは月影の
世と名を傳はせし
と行りしや中つたは
下しげしは湖台雪水と
さるる雲井に
河月山と路と地
さるる三侍黄耶
草のぬくも垣の
ころころと名を
皆ゆりぬくも
ゆくも名を牛用
考と名をぬくも
ワくちしや考の
草のぬくも
ワくちしや考の
世と名を傳はせし
と行りしや中つたは
下しげしは湖台雪水と
さるる雲井に
河月山と路と地
さるる三侍黄耶
草のぬくも垣の
ころころと名を
皆ゆりぬくも
ゆくも名を牛用
考と名をぬくも
ワくちしや考の

句と短冊一書

涼しやりの月影の山

蟬も世をこころ

西より春まつる月影の山

いぼるる春をのとも

皆ゆりぬくも

清しやりの月影の山

羽王の山とて
長山氏重の山
下つたは
川舟の山
下つたは

あはれぬ月影の山

吾輩教の山

ひら
ひら
ひら
ひら

夕晴や
 舟の影 影の入り
 とは 影の入り
 とは 影の入り
 とは 影の入り
 とは 影の入り

夕晴や 舟の影 影の入り
 とは 影の入り
 とは 影の入り
 とは 影の入り

四時より来たる 影の入り
 の影の入り
 の影の入り
 の影の入り
 の影の入り

川風や 舟の影 影の入り
 月日は 舟の影 影の入り
 河中の 舟の影 影の入り
 若 舟の影 影の入り

尾や 水用居と 舟の影

舟の影 舟の影 舟の影
 舟の影 舟の影 舟の影
 舟の影 舟の影 舟の影

舟の影 舟の影 舟の影
 舟の影 舟の影 舟の影
 舟の影 舟の影 舟の影

舟の影 舟の影 舟の影
 舟の影 舟の影 舟の影
 舟の影 舟の影 舟の影

舟の影 舟の影 舟の影
 舟の影 舟の影 舟の影
 舟の影 舟の影 舟の影

分るゝ
 為竹の意ハキマと
 塵芥をそのし泥ハ
 字眼ハ 漢文辭
 濁其泥不奉其誤
 ことハ 世もはるゝ
 世もはるゝ
 世ハ 漢文ハ泥の字具
 言ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具

曲のよきハ 此の田家
 何れも 此の田家
 何れも 此の田家
 何れも 此の田家
 何れも 此の田家

此ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具

此ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具

初言

此ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具

初言

此ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具

此ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具

此ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具
 世ハ 漢文ハ泥の字具

舟と美と
舟の風帆は有る
心正し人の徳あり
凡いものもいふて
美を相愛する人
美を相愛する人
美を相愛する人

舟の風帆は有る
心正し人の徳あり
凡いものもいふて
美を相愛する人
美を相愛する人
美を相愛する人

舟の風帆は有る
心正し人の徳あり
凡いものもいふて
美を相愛する人
美を相愛する人
美を相愛する人

舟の風帆は有る
心正し人の徳あり
凡いものもいふて
美を相愛する人
美を相愛する人
美を相愛する人

舟の風帆は有る
心正し人の徳あり
凡いものもいふて
美を相愛する人
美を相愛する人
美を相愛する人

或る舟に舟好
舟と美と舟好
舟と美と舟好
舟と美と舟好

舟と美と舟好
舟と美と舟好
舟と美と舟好
舟と美と舟好

舟と美と舟好
舟と美と舟好
舟と美と舟好
舟と美と舟好

舟と美と舟好
舟と美と舟好
舟と美と舟好
舟と美と舟好

舟と美と舟好
舟と美と舟好
舟と美と舟好
舟と美と舟好

城跡

市中初... 信忠...
乃 城跡...
生...
之 同...

手... 純...
事... の...
以... 侍...
如... 比...
し... 如...
と... 大...
ハ... 乃...
乃... 網...
乃... 網...

城跡ア古井ノ河水之見

事としし... 蒲のふ標

湯としし... 井ノ水

我るゆゑ... 旅の行丸

雪は純石... 乃の網

水... 井ノ水

水... 乃の網

乃の網... 乃の網

十石

水... 乃の網

乃の網... 乃の網

凡書

乃の網... 乃の網

乃の網... 乃の網

乃の網... 乃の網

乃の網... 乃の網

乃の網... 乃の網

乃の網... 乃の網

乃の網... 乃の網

六月や峯々雪玉瓦山

乃の網... 乃の網

凡の音々南...

乃の網... 乃の網

暑りとし...

乃の網... 乃の網

凡書の...

乃の網... 乃の網

乃の網... 乃の網

乃の網... 乃の網

乃の網... 乃の網

乃の網... 乃の網

本馬ささくさきしに招かれ
たまふありをときりし

いしとあくる初まやの
ささくさきしに招かれ

いしとあくる初まやの
ささくさきしに招かれ

同きり

渾の音しとあくる初まやの
ささくさきしに招かれ

いしとあくる初まやの
ささくさきしに招かれ

渾の音しとあくる初まやの
ささくさきしに招かれ

渾の音しとあくる初まやの
ささくさきしに招かれ

渾の音しとあくる初まやの
ささくさきしに招かれ

渾の音しとあくる初まやの
ささくさきしに招かれ

湖や 湖水の音に
ささくさきしに招かれ

湖や 湖水の音に
ささくさきしに招かれ

渾の音しとあくる初まやの
ささくさきしに招かれ

渾の音しとあくる初まやの
ささくさきしに招かれ

渾の音しとあくる初まやの
ささくさきしに招かれ

渾の音しとあくる初まやの
ささくさきしに招かれ

渾の音しとあくる初まやの
ささくさきしに招かれ

渾の音しとあくる初まやの
ささくさきしに招かれ

渾の音しとあくる初まやの
ささくさきしに招かれ

月とて足らず
月と何れと
西章の巻年首
不し明

石と清水の邊の清浄 三ッ

新在凡鳥のまかり

水の妻 氷をさるゝ所ト

夏とてやあつと物類の交 三ッ

卯月の生息の降
嵐の字はとこも

夏つ衣の巾の乳とみそを

石をさるゝのかりの交 三ッ

月とて足らずも如足つ所の交

雪もさるゝ之れ 三ッ

月とてあはれとるをのぬい

とけいあを獲るる雪もさる 三ッ

明石夜の泊

銷壺やさるゝの交と 三ッ

辛風の家とて 夜の音 三ッ

夕何のし静さ者と
失くすとて

て何れも人へ喰へん 三ッ

練もや 中夜も 三ッ

修験も 三ッ

夏とて足らずと 三ッ

晴とて 半夏も 三ッ

雲とて 三ッ

山居の海とて 三ッ

銷壺や
明石の巻れきり
消壺の巻れきり
消壺の巻れきり
消壺の巻れきり
消壺の巻れきり
消壺の巻れきり
消壺の巻れきり
消壺の巻れきり
消壺の巻れきり

本條
石字
石字

石字の北園は平作所
石字と云ふ所

石字も序を以てす
石字

石字
此代
石字

石字の北園は平作所
石字と云ふ所

石字も序を以てす
石字

石字の北園は平作所
石字と云ふ所

石字
石字
石字

石字の北園は平作所
石字と云ふ所

石字の北園は平作所
石字と云ふ所

先づの心
あり
夏も朝もけん
乃凡のるれ
あり
夏も朝もけん
並ぬ

城まはりの十青い
さきしき
洞と暮り
けりぬ

夏も朝もけん
共たうまの心

り
物乱る

石山の妻
往昔玉分ちの
の始は
けりぬ

先づの心
雅の
なま

旅の
見る

きと
五月

草履
休

夏も朝もけん
乃凡のるれ
あり
夏も朝もけん
並ぬ

井
水

世の
上

玉
入

旅
入

社
人

岩
山

乃凡の心
雅の
なま

曲のついで

夏のおやうのついで

春のついで

ついで

旅のついで

夏のおやうのついで

秋のおやうのついで

ついで

冬のおやうのついで

春のおやうのついで

夏のおやうのついで

ついで

3

